



文・写真
山本 長春
やまもと ひさはる
(難波田城資料館 市民学芸員)

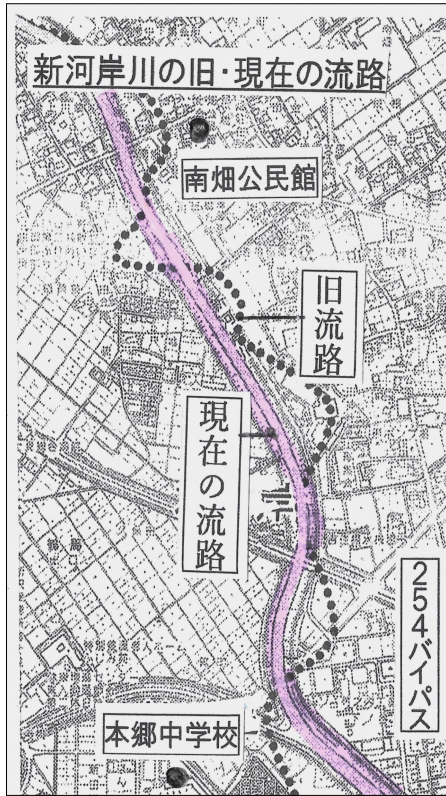
第3回 新河岸川大改修100年

富士見市の市章に描かれた3本の輪。いわれを知っていますか？

合併した南畑、鶴瀬、水谷の旧3村とともに、荒川、新河岸川、柳瀬川の3つの川を表します。中でも新河岸川は市中心部を流れ、私は勝手に「富士見の母なる川」と呼んでいます。

いまの流れになったのは約100年前の大改修でした。(地図参照)

新河岸川は、荒川水系で主流(幹川)は延長34・6^キ、流域面積は411平方^キもあります。起点は、川越市上野田町の八幡橋上流。「一級河川新河岸川起点」の石碑があるので、行ってみましょう。



終点は東京・北区の岩淵水門近く。隅田川に合流しています。

10年間の大工事

大改修は1921(大正10)年〜1930(昭和5)

年に行われました。もともと江戸時代、舟運のため開削したもので「内川」(荒川が「外川」と呼ばれました。「九十九曲り」で水深は深くなり舟運にはいいのですが、たびたび氾濫。とくに1910(明治43)年、荒川とともに大洪水を起こしました。



台風19号による増水
(南畑橋近く、2019年)

『新河岸川改修工事概要』(1931年、県土木部発行)には工事目的についてこうあります。

「主眼ヲ水害除去トシ、傍ラ平水時ニ於ケル船運ノ便ヲ計ル運河トシテ大イニ地方産業ノ發展ニ資セントスルモノ」
当時、舟運をもっと進めようと運河に、と考えていたのです。

県の担当は6里34丁(約27^キ)で、工期は当初9年でしたが、関東大震災が起き1年延長しました。当時最新の土木機械が導入され、掘削浚渫工事では、ラッダー式浚渫船などを投入しました。蛇行していた流路が緩やかに変わりました。

開拓で耕地に

戦後の1951年、国の食糧増産の要望にこたえて県は旧新河岸川の廃川敷(国有地)などの開拓を計画しました。



南畑橋付近に建つ
「旧新河岸川開拓記念碑」

中断があり完了したのは70年代で、15・5万平方^メの耕地ができました。詳しくは、南畑橋近くに立つ「旧新河岸川開拓記念碑」をみてください。

これで水害が無くなったわけでありません。記憶に新しいところでは、2019年の台風19号です。あわや越水という危機に。川沿いの住民は「あと1時間雨が降り続いたら氾濫していたかも」と恐怖を語っています。

「水との闘い」はいまも続いているのです。

【参考資料】

『水害と闘う〜富士見市の洪水と被害と〜』(企画展図録・2011年、富士見市立難波田城資料館刊)ほか。